

式

辞

校庭の木々の緑が目に見えて濃くなるとともに、草花も一斉に咲き出し、生きとし生けるものすべてに生命の息吹きがみなぎる季節を迎える中、多数のご来賓の皆様のご臨席を賜り、また保護者の方々にもご列席をいただき、本日、ここに平成三十年度中村学園三陽中学校高等学校入学式を挙行できますことは、誠に喜びに絶えませぬ。

ただ今、入学を許可いたしました中学二十四名、高校百三十七名の新入生の皆さん、そしてこれまで多くの愛情を注ぎお子様を立派に育ててこられた保護者の皆様、ご入学おめでとうございます。

本校は中村学園 学園祖中村ハル先生の「人間は頭の良し悪しや学力の優劣よりも、

何よりも人物ができていくことが基本である」という言葉を基に、社会で有為な人材を育成するために、「健全な人間性」を鍛え上げる錬磨育成の場として教育活動に邁進しております。その人間性を育む土台となる精神が、本校の掲げる校訓「誠実」「感恩」「向上」であります。本日はこの校訓について、本校の目指す人物育成の基本となる考え方を皆さんにお伝えしたいと思います。

「誠実」とは、まじめで私利私欲をまじえず、真心をもって人や物事に対することです。常に嘘偽りのない考え方・行動をとることとはもちろんのこと、自分を尊重し相手を尊重できることも「誠実」であるためには必要です。また、日頃の生活においては、規律を守る・約束を守る・時間を守ることなども皆さんの誠実さを表す基準となるでしょう。

う。ですから皆さんは、本校での学校生活に一生懸命に取り組むことで、自ずと「誠実」であることを身につけられます。勉学や部活動、さらには生徒会活動やボランティア活動等に積極的に取り組んで、人間的に大きく成長をしてもらいたいと思います。

「感恩」は人の好意や恩義に感謝をすることです。ただ感謝するだけでは不十分です。私たちはその恩に報いられるよう努力をしなければなりません。これを「感恩報謝」と言います。皆さんをここまで大きく育ててくれた親御さんに対する恩、これまででお世話になった先生方や友人に対する恩、他にも自分を支えてくれた人々に対する恩、さらには大自然のように自分を生かしてくれる存在に対する恩等々、私たちは自分に影響を与えるあらゆる存在に感謝し、そのご恩に報いられるように生きていく必

要があるのです。恩に報いるといっても特別なことをする必要はありません。親御さんが安心されるように勉強に打ち込むことも感恩の表れ、勉強だけではなく皆さんが活き活きといろいろな学校生活に取り組む姿を見せることも、感恩の表れと言えらるでしょう。さて、日本語では感謝の気持ちを伝える言葉は『ありがとう』です。『ありがとう』という言葉ほど多くの人々に好まれ、愛されて使われている言葉はありません。『ありがとう』は、その言葉の優しさ・響き・そこに込められた感謝の気持ちなど、どれをとっても最高の言葉であると思います。『ありがとう』という言葉は、元来心の奥深い感謝の気持ちから発信されるものです。そして、その感謝の思いが我々の魂を揺さぶるエネルギーとなります。しかし、注意しなければならぬことがあります。それはどんなに『あり

がどう』という感謝の言葉を積み重ねても、不平や不満・愚痴・泣き言・悪口・文句を言うのと、せつかく積み重ねてきた『ありがとう』という感謝の思いは消えてしまいます。これから「感恩」の心を抱き、大きく成長しようとする皆さんには、感謝の言葉『ありがとう』を自然に笑顔で言える三陽生であってほしいと願っています。

最後に「向上」です。読んで字のごとく、上に向かって進むことです。しかし、ただ上に向かって進めばよいというわけではありません。三陽生はしっかりと「志」をもって向上しなければなりません。“志”とは、心に決めた目的や目標であり、その目的や目標を達成しようという強い意志を表しています。皆さんは“ウサギとカメ”の話は知っていますね。ウサギとカメとが、どちらが速いかを競うために、ゴールを目指します。足

の速さに自信のあったウサギは途中で眠ってしまいましたが、カメは一度も止まらず、ゆっくり、しかし着実に歩き続け、最終的にカメが先にゴールに到達するという物語でした。ウサギはこのレースで常にカメを見て競争していたのに対し、カメはウサギを見るのではなく、ひたすら自分のゴールだけを見ていたことに注目してください。“志”というのはカメが目指したゴールのことです。どんなに困難な状況にあらうとも、自分を見失うことなく着実に人生を全うする指針が“志”であると言えるでしょう。ウサギが油断して眠ってしまった行為は、“志”が低ければ目光の利害や誘惑ばかりに気をとられ、結局は目標を達成できなくなってしまうということを示唆しています。高邁な志を持った人、国家・社会のために献身しようとする人のことを、我々は“志士”と呼びます。今から

百五十年前幕末に生きた吉田松陰や坂本龍馬らの“勤王の志士”たちは、自分を犠牲にしても国や社会のために尽くそうと高い志をもって近代日本設立の原動力となりました。皆さんの力で中村学園三陽中学校・高等学校の新たな歴史を築いてください。人一倍の苦勞と努力をして、社会のどこにあってもそれぞれの立場においてなくてはならない存在となり、自分の行爲を通じて世のため人のために貢献できる人物を目指してもらいたいと思います。高い志から生まれた行いは、必ず人を奮い立たせます。人間が志を立てるといふことは、いわばローソクに火を点けるようなものです。ローソクは、火を点けられて初めて光を放ちます。同様に人間は、その志を立てて初めてその人の真価が現れるのです。進取の気概に溢れ、向上心豊かな凛々しい男子が、三陽

生の理想です。私はそのような生徒を「三陽の志士」と讃えたいと思います。

校訓「誠実」「感恩」「向上」は、本校の人間教育の柱となるものです。三陽生としてこの校訓をしつかりと胸に抱き、これからの学校生活を価値あるものにしてください。

二〇二〇年から日本の教育環境が大きく変わります。これからの教育は、単なる知識や技能の修得にとどまらず、思考力・判断力・表現力を身につけるとともに、主体的に学習に取り組む態度を養うこととされています。本校でも、二年前からiPadを導入し、自ら主体的に学ぶ気風を育む努力をしていますが、本年度は国際社会で活躍できる人材育成にも力を入れ、先進的な英語教育の導入や海外留学制度を推進してまいります。他校に例のない魅力的な学校を創造してまいりますので、どうぞご期

待下さい。

それでは、これから国際社会での活躍を期待される三陽生の皆さんに、私から英語のメッセージを送ります。

Boys, find your excellent abilities,
face and overcome your difficulties,
try to think, decide, and act by yourselves,
and you, ll be ambitious Sanyo warriors.

すぐれた能力を求めよう。

困難に立ち向かいそれを克服しよう。

自ら考え・判断し・行動すれば、

君たちは、志高い「三陽の志士」となる

最後になりましたが、保護者の皆様、私たち教職員一同はお子様の教育に全力で取り組んでまいります。しかし、私どもが

教育活動を進めていくには、保護者の皆様方との強い絆が必要です。学校生活においては、楽しいことばかりではなく、厳しいこと・堪え忍ばなければならぬことをあえてお子様に課すこともあるかと存じます。そのような時に、保護者の皆様とともにお子様の成長をしっかりと見守ることができよう、信頼の絆を深めてまいりましょう。保護者の皆様のご理解とご協力・ご支援をよろしくお願い申し上げます。

また、本日御臨席を賜りました御来賓の皆様、新入生が三年間または六年間過ごす中村学園三陽中学高等学校に対して今後とも御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

新入生の皆さんが、今日の喜びを忘れることなく、心身健康で、有意義な中学・高校生活を送ることを心から期待し、式辞と

いたします。

平成三十年四月八日

中村学園三陽中学校

中村学園三陽高等学校

校長 梶原美隆